



令和元年10月10日発行

発行 長岡京市上下水道部
長岡京市開田一丁目1番1号

水だより

給水人口	81,138人 (令和元年9月1日現在)
給水量	3,815,044m ³ (平成31年4月～令和元年8月)
下水道普及率	99.8% (平成31年4月1日現在)

上下水道事業審議会 答申 ～長岡京市上下水道ビジョン(経営戦略)策定～

平成29年8月16日に、市長は長岡京市上下水道事業審議会に「経営戦略による上下水道ビジョンの策定と今後の水道料金及び下水道使用料のあり方」について諮問をしました。その後、2年間に渡り9回に及ぶ審議会と7回の部会を経て、「長岡京市上下水道ビジョン(経営戦略)」が完成し、8月1日、山田会長から市長に答申書が手渡されました(右写真)。

上下水道ビジョンは、経営戦略の視点を盛り込んだ令和2年度から11年度までの10年間の水道事業と下水道事業の現状と課題、今後の取り組みについての計画です。



上下水道事業審議会山田会長(左)から答申書を受け取る中小路市長

答申内容のまとめ ～今後の水道料金及び下水道使用料のあり方～

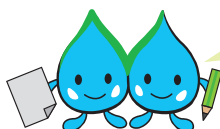


審議会の様子

水道事業では、施設整備計画の策定手法であるアセットマネジメントに基づく効率的な投資による事業運営を行い、経営状況を踏まえて中間点である令和6年度に、水道料金も含めて上下水道事業審議会において審議することが必要である。また、京都府営水道事業経営審議会の審議の動向についても注視し、府営水道の受水費軽減の方向性により、本市水道料金の軽減も検討する必要がある。下水道事業では、雨水事業においては浸水対策の整備を積極的に進められ、汚水事業においては、経営の健全化を維持していくことが重要となり、3つの重点基準目標を達成するため、約22%の下水道使用料改定が必要である。上下水道料金の改定にあたっては、市民の十分な理解を得られるとともに、市民負担の軽減に努力される必要がある。

上下水道ビジョン 意見募集(パブコメ)結果概要

- 意見募集期間 6月21日～7月21日
- 意見提出 水源の保全と確保、水道料金、下水道使用料などについて計20件
- ホームページアクセス数 172件(7月22日現在)



審議会や上下水道ビジョンについては市ホームページにも掲載しています。

主な内容

長岡京市上下水道ビジョン(経営戦略)	1～3
教えて水都ちゃん	3
水道事業について	4
下水道事業について	5
上下水道事業会計決算	6
非常用備蓄水の販売予定について	6
雨水タンクの設置助成について	6

令和2～11年度 長岡京市上下水道ビジョン(経営戦略)の概要

長岡京市上下水道ビジョンは、「長岡京市第4次総合計画」を最上位計画とし、厚生労働省の「新水道ビジョン」、国土交通省の「新下水道ビジョン」及び総務省の「経営戦略」の策定方針を踏まえて策定しています。上下水道事業の現状と課題及び今後の取り組みについては、次のとおりです。

■水道事業(関連記事P4)

【安全】

〈水源の保全と確保〉

- 市民向け地下水と府営水のブレンド率50%を基本として給水しています。

〈鉛製給水管の点在〉

- 鉛の溶出や腐食による漏水防止のため、取替更新を進め、早期の解消が必要です。

- 市民向け地下水と府営水のブレンド率50%を維持し、地下水の保全や府と連携し、効率的な水運用を図ります。
- 鉛製給水管の解消に努めます。

鉛製給水管率

H29 実績値	R6 目標値	R11 目標値
11.7%	6.0%	0.0%

【強靱】

〈施設の耐震化及び更新の推進〉

- 配水池の耐震化は概ね完了しています。東第2浄水場は、現地での更新等も含めて耐震補強の必要があります。

〈基幹管路の耐震化〉

- 高度経済成長期に布設された基幹管路が次々と更新時期を迎えます。

- 東第2浄水場の耐震補強による延命化を進めます。
- 老朽化した管路の計画的な更新による耐震化を進めます。

基幹管路の耐震適合率

H29 実績値	R6 目標値	R11 目標値
48.1%	52.0%	55.0%

【持続】

〈経営基盤の強化〉

- 施設の統廃合等により経費の抑制に努めていますが、節水等から有収水量は減少し、水道料金収入が減収となっています。
- 今後、人口の減少等から水需要が減ることも予測されます。施設の統廃合とアセットマネジメント手法の精度を見直し、将来の施設整備計画を策定する必要があります。

- 適正な事業運営に基づく適正な料金を算定し、持続的な経営を実現します。

安全で安心な水道水を安定して供給するために

現状と課題

今後の取り組み

■下水道事業(関連記事P5)

【環境保全】(汚水事業)

〈管路整備〉

- 昭和49年から事業着手、昭和54年度から供用を開始し、令和2年度で整備完了予定です。

〈処理場〉

- 京都府洛西浄化センターへ処理を委託しています。供用開始から約40年経過し、老朽化等による更新及び維持費の負担金の増加が想定されます。

- 管路及び施設の改築更新工事の平準化を図るため、ストックマネジメント計画を策定し、老朽化及び耐震化対策を進めます。

生活環境の改善
公共用水域の水質保全

【安全安心】(雨水事業)

〈犬川の一部〉

- 5年に1度の雨量に対応すべく整備済みです。

〈風呂川排水区〉

- 10年に1度の雨量に対応すべく今里雨水貯留施設を整備済みです。

〈いろは呑龍トンネル〉

- 京都府等との合同事業です。10年に1度の雨量に対応すべく整備中です。(令和5年度全面供用開始予定)

- 雨水排水全体計画区域のうち、10年に1度の雨量に対応した予定面積を計画的に整備します。

雨水整備率(10年に1度の雨量)

H29 実績値	R6 目標値	R11 目標値
67.7%	75.4%	80.0%

現状と課題

今後の取り組み

【健全経営】

〈下水道使用料〉

- 府下南部他市との比較では使用料が低額です。また、節水等から有収水量も減少しています。

〈資金不足〉

- 短期間で汚水の管路を整備したことから、企業債(借金)の割合が高く、多額の元利償還金(返済)が、下水道事業経営を圧迫しています。

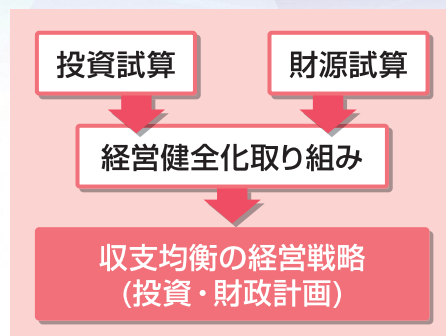
- 基準外の一般会計繰入金等公費負担のあり方や経費回収率を見直し、汚水事業に必要な経費を賄えるよう適正な下水道使用料を検討します。

起こりうる災害
浸水被害に備えて

経営戦略

経営戦略とは、今後の経営の基本計画となるものです。事業効率化や経営健全化の取り組みにより、施設・設備への投資の見通しである「投資試算」などの支出と、財源の見通しである「財源試算」の収入のバランスがとれた10年間の収支計画です。

今後、毎年度ごとに進捗管理を行い、5年ごとに計画見直しの検討をします。



水道

重点基準目標	将来予測
経常収支比率(※)(100%以上)	概ね確保
自己資金残高(9億円以上)	令和6年度までは確保
企業債(借金)残高比率(300%以下)	令和5年度までは確保

(※) 経常収支比率…費用が収益で賄われる割合

計画期間の中間
(令和6年度)に審議

下水道

重点基準目標	将来予測
運転資金(最低2億円)	約2億円確保
経費回収率(100%以上)	改善せず85%推移
基準外一般会計繰入金(※)(削減)	約3億円が一時約5億円

(※) 基準外一般会計繰入金…使用料で賄いきれない赤字を市税で負担する金額

計画期間の開始時
(令和2年度)に見直し

これまでの10年間と今後の10年間の雨水事業の建設投資額
約6億円(平成22～令和元年度) ⇨ 約34億円(令和2～11年度)

基準外一般会計繰入金を解消する試算

平成29年度決算値2.73億円を解消するためには、現在の下水道使用料の約22%改定が必要
→料金改定をすると経費回収率は100%以上となる見込みです。

教えて! 水都ちゃん

- ・下水道事業って何だろう?
- ・どうして下水道使用料を改定する必要があるの?

下水道事業には**汚水事業**と**雨水事業**があります。それぞれの目的や財源などは次のとおりです。

■目的

汚水事業…家庭や工場からの汚水をきれいにし、生活環境の改善や河川の水質を保全する事業。

雨水事業…都市に入り込んだ雨水を排除し、浸水被害を食い止める事業。

■財源

汚水事業…汚水は生活や生産活動により排出されるため、経費は排出量に応じて頂いている下水道使用料で賄うのが原則です。

雨水事業…浸水被害の防止など公益性が高いため、経費は税金で負担しています。

■現状

汚水事業については企業債(借金)の返済などが経営を圧迫しており、下水道使用料だけで賄えない部分については、市税から**基準外一般会計繰入金**として負担してもらっています。



上下水道事業審議会の答申内容

市税の基準外一般会計繰入金を無くし、健全な下水道経営を行うには、下水道使用料の適正化を図るため、下水道使用料を約22%改定することが必要と提言されています。

水道事業 ～安全で安心な水道水を安定して供給するために～

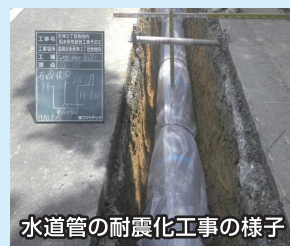
本市の水道事業は、地下水を水源として昭和38年に給水を開始しました。その後、人口急増等による水需要の増大から新たな水源の確保が課題となり、平成12年に桂川上流の日吉ダムを水源とする府営水道の受水を開始しました。水道事業の現状や課題、今後の取り組みについては、次のとおりです。

◆ 二元水源の確保 ◆

安定給水を確保するため、平成12年10月から京都府営水道を受水し、地下水と府営水の二元水源を確保することができました。地下水を将来にわたり使い続けるため、地下水と府営水のブレンド率は概ね50%となるよう水運用を行っています。

◆ 水道施設の現状 ◆

給水開始以後、水道施設を整備してきましたが、法定耐用年数(40年)を経過した水道管が年々増え続けています。老朽化した水道管は、計画的に耐震管へと更新していますが、高度経済成長期に布設された基幹管路が次々と更新時期を迎えます。また、東第2浄水場は、昭和57年から稼働し、40年近く経過しており、浄水池の耐震補強や、機械・計装設備等の大規模な更新の必要があります。



水道管の耐震化工事の様子

◆ 今後の取り組み ◆

安全で安心な水道水を将来にわたり安定して供給するため、地下水の適正揚水量を守り、地下水と府営水のブレンド率50%を維持します。また、アセットマネジメント(※)手法による資産管理を行い、水道管の耐震化を計画的に進めるとともに、東第2浄水場は、耐震補強工事及び定期的な調査と補修を実施することで延命化を図り使用していきます。

(※)アセットマネジメント

水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)とは、持続可能な水道事業を実現するために、中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって、効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する手法。

原水及び浄水水質検査結果(抜粋) 採水日 6月12日

検査項目	東第2浄水場	
	混合原水	浄水
シスー1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン (基準値:0.04mg/L以下)	0.004mg/L未満	0.004mg/L未満
トリクロロエチレン (基準値:0.01mg/L以下)	0.001mg/L未満	0.001mg/L未満

注1 混合原水とは水道水の元になる水のことで、浄水処理をするため、市内にある複数の井戸からくみ上げ、浄水場に集めています。混合原水は水質基準値に規定はありませんが、水質の参考として表示しています。

注2 表中の物質は有機化合物と呼ばれるもので、自然界には存在しません。これらは溶剤等に使用され、地下水汚染物質として知られています。上下水道部では、水道原水である地下水において、これら化合物の検査を行い、水質を管理しています。

注3 測定値における「～未満」表示は、検査結果数値が、水質基準値の1/10未満の場合です。

長岡京市 水質検査結果

漏水調査とは…

本市では、配水量がどの程度収益に繋がるかを有収率(有収水量/配水量)により把握しています。有収率は、効率的な水運用状況を把握するための指標で、有収率の維持向上のため毎年下半期に漏水調査を実施し、有収率は95%と高い数値となっています。漏水調査を継続して実施することは、漏水による水資源の損失防止や道路陥没等の緊急事故予防対策となります。



音聴棒⇨



⇨漏水探知機

6月21日発生の水道の異臭原因について

水道水からの異臭について、京都府営水道からの供給水で異臭が発生していたため、京都府が原因調査を行いました。調査結果では、府営水道の水源である河川に混入したフェノール等の化学物質が、浄水工程での塩素処理中に塩素と反応することで生成した物質の臭気と、水道本来の塩素臭とが合わさったのが原因と推測されるとのことです。

なお、水道水の安全性については、異臭発生時も、その後の水質検査でも、水道水中のフェノール類の濃度も含めて、水質基準を満たしており、問題ないことが確認されています。詳しくは、市及び府のホームページをご覧ください。



下水道事業 ～安全安心な暮らしを守る下水道施設～

本市の下水道事業は、昭和49年に汚水事業の事業認可を得て着手したあと、昭和60年に雨水事業を追加しました。それぞれの現状や課題、今後の取り組みについては、次のとおりです。

《汚水事業》

◆ 汚水の整備状況 ◆

本市は、下水道事業を着手後、昭和54年度に第1回の供用を開始しました。平成29年度末現在の整備状況は、計画区域面積1,166ha、整備済面積971.5haで面積普及率83.3%、人口普及率99.7%、水洗化率99.2%に達しています。事業開始から47年目となる令和2年度で下水道管路の整備が完了となる予定です。

◆ 下水道管の現状 ◆

本市の下水道管の延長は約224km、マンホール数は約1万基あります。下水道管の耐用年数は50年が標準とされていますが、布設後20年を経過した施設から計画的に老朽化の調査診断を行っています。そこで昭和61年度より、建設年次の古い箇所からTVカメラ調査を行い、破損箇所の更生、補修を行っています。

◆ 今後の取り組み ◆

下水道事業を昭和60年から平成18年に集中して進めたことにより、老朽化する時期が重なり、調査診断、更生・補修が必要となる管路が短期間に集中することが予想されます。この事業費を平準化することを目的とし、ストックマネジメント計画(※)により汚水管路の維持管理を進めていきます。

(※)ストックマネジメント計画

下水道事業の役割を踏まえ、持続可能な下水道事業の実施を図るため、明確な目標を定め、膨大な施設の状況を客観的に把握、評価し、中長期的な施設の状況を予測しながら、下水道施設を計画的かつ効率的に管理すること。

《雨水事業》

◆ 雨水の整備状況 ◆

昭和60年12月に浸水被害の多い箇所から事業に着手し、犬川の一部を5年に1度の雨量(1時間降雨量51.1mm)に対応した整備を進めてきました(右写真①)。

平成10年から、風呂川排水区において10年に1度の雨量(1時間降雨量61.6mm(※1))に対応する計画を策定し、今里雨水貯留施設を整備しました(右写真②・③)。

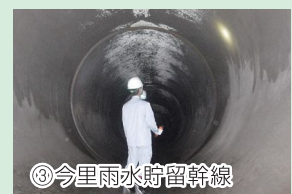
平成7年度から、市南東部の浸水対策として京都府等との合同事業で10年に1度の雨量(1時間降雨量61.1mm(※2))に対応すべく、いろは呑龍トンネルに着手し、本市においては令和3年度に一部、令和5年度に全面供用開始を予定しています。



①犬川



②今里雨水ポンプ場



③今里雨水貯留幹線

※1：タルボット型降雨強度式による算定

※2：クリーブランド型降雨強度式による算定

◆ 今後の取り組み ◆

安全安心のための施設整備に向けて、全体計画区域1,143haのうち、10年に1度の雨量(1時間降雨量61.1mm)に対応する予定面積576haを計画的に整備していきます。



水路の整備工事の様子

平成30年度 決算



詳しくは、市ホームページを見てね。

●水道事業会計

収益的収支 (消費税含まない)

収益的収入	21億5,945万円
収益的支出	19億7,441万円
当年度純利益	1億8,503万円

資本的収支 (消費税含む)

資本的収入	2億4,537万円
資本的支出	5億7,524万円

※不足する額3億2,988万円は内部留保資金で補てんしました。
※万単位未満は四捨五入としているため、差し引きは一致しない場合があります。

■事業に必要な費用は水道料金収入で

水道事業は、地方公営企業法を適用し、事業に必要な費用は水道料金収入で賄っています。「水道ビジョン」「中期経営計画後期計画」に基づき経営の効率化・健全化に努めています。

■平成30年度の主な事業内容

施設整備事業では、老朽化した水道管の耐震化や更新を進めており、天神3丁目他地内や粟生樋ヶ前地内の配水管布設替工事などを実施しました。

●公共下水道事業会計

収益的収支 (消費税含まない)

収益的収入	28億6,748万円
収益的支出	29億1,795万円
当年度純損失	5,047万円

資本的収支 (消費税含む)

資本的収入	14億2,562万円
資本的支出	20億4,688万円

※不足する額6億2,126万円は内部留保資金で補てんしました。
※万単位未満は四捨五入としているため、差し引きは一致しない場合があります。

■平成29年4月から企業会計方式を導入

公共下水道事業は、平成29年4月に地方公営企業法を適用し特別会計から企業会計に移行しています。企業会計方式の導入により、財政状態や経営状況を的確に把握し、事業経営の効率化・健全化を図っています。

■平成30年度の主な事業内容

汚水事業では長寿命化計画に基づく老朽化施設の改築・修繕を実施しました。雨水事業では、老朽している今里雨水ポンプ場の長寿命化工事の一環で、蓄電池や電気設備の取り換えを行いました。また、長岡第九小学校に雨水貯留浸透施設を整備しました。

非常用備蓄水 「ガラシャおもかげの水」

12月頃
販売予定

本市では、本年度も各ご家庭や事業所での備蓄用に「ガラシャおもかげの水」の販売を予定しています。販売日等は、決まり次第、市広報紙やホームページでお知らせします。

【価 格】3千円(税込、24本入)

【保存期間】10年



問 総務課 水道係 ☎955-9538

小学生対象

「水の出前講座」を実施しました

6月の水道週間に合わせて、水の大切さを知ってもらおうと市内の全小学校4年生を対象に「出前講座」を行いました。水道水が出来るまでのしくみや、使用した水がどのように処理されるのかなどを説明しました。

また、代表の子どもたちが冷やした水道水と市販の水の飲み比べを行い、約6割の子どもたちが「水道水が好き」と答えてくれました。



先着順で50件まで！ 雨水タンク設置助成

申請
募集中

本市では、雨水タンクの設置助成金制度を行っています。詳しくは下記へ。

【対 象】市内に建物を所有・占有する人

【内 容】雨水タンク(80ℓ以上)の本体と付属品の購入費用の4分の3(上限4万5千円)



問 総務課 下水道係 ☎955-9714

ご意見、
お問い合わせは
上下水道部総務課まで



電 話 075-955-9538 ホームページ <http://www.city.nagaokakyo.lg.jp/>
F A X 075-951-2200 メールアドレス suidou@city.nagaokakyo.lg.jp